

# トビウオ通信 (6月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 13 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網漁業(かけまわし)

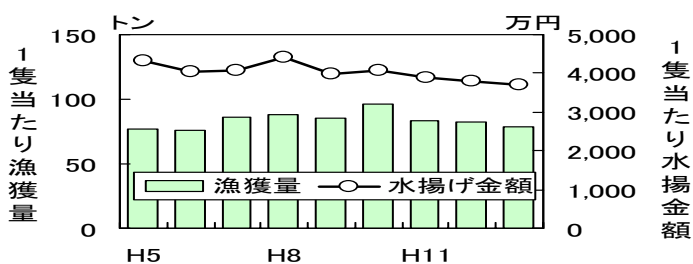


図1 小型底びき網漁業における1隻当り漁獲量・水揚げ金額の動向

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし) 60隻\*の平成13年漁期(平成13年9月1日~平成14年5月31日)の総漁獲量は4,712トン、総水揚げ金額は22億2,252万円でした。1隻当り漁獲量は78.5トン、水揚げ金額は3,704万円で、漁獲量・金額とも前漁期および平年を下回りました。

\* 当漁業における島根県全体の操業隻数は61隻ですが、統計は60隻分の集計です。

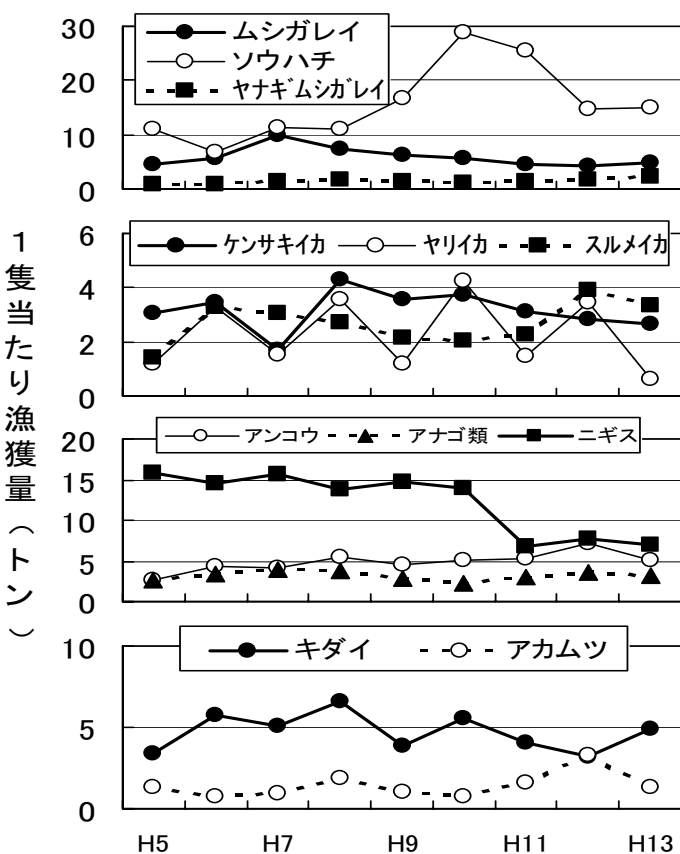


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

### カレイ類好調

ムシガレイの1隻当り漁獲量は4.9トン、ヤナギムシガレイは2.1トンでともに前漁期を17%上回りました。またソウハチの1隻当り漁獲量は14.9トンで前漁期をわずかに上回りました。この他、前漁期と比べメイタガレイ(1.2トン)は10%増、アカガレイ(0.5トン)は2.4倍、ヒレグロ(2.6トン)は1.7倍の水揚げがありました。

### イカ類低調・ヤリイカ過去最低

ケンサキイカの1隻当り漁獲量は2.6トンで前漁期をわずかに下回りました。ヤリイカは不漁年に当たり、前漁期の2割に留まる0.6トンの水揚げがあり、平成5年以降最低の水揚げとなりました。また、スルメイカは前漁期を下回る3.3トンの水揚げがありました。

### キダイ増加・ニギス依然低調

前漁期秋季に小型魚が集中的に漁獲されたアカムツの1隻当り漁獲量は1.3トンで前漁期の4割程度に留まりました。また、アンコウは5.0トン、アナゴ類は3.2トン、ニギスは6.9トンで前漁期を10~30%下回り

ました。一方、キダイは4.9トンで前漁期の1.5倍の水揚げがありました。

この他、今漁期は秋季にチダイがまとまって漁獲され、近年では最高となる92トンの水揚げがありました。

## 沖合底びき網漁業（2そうびき）

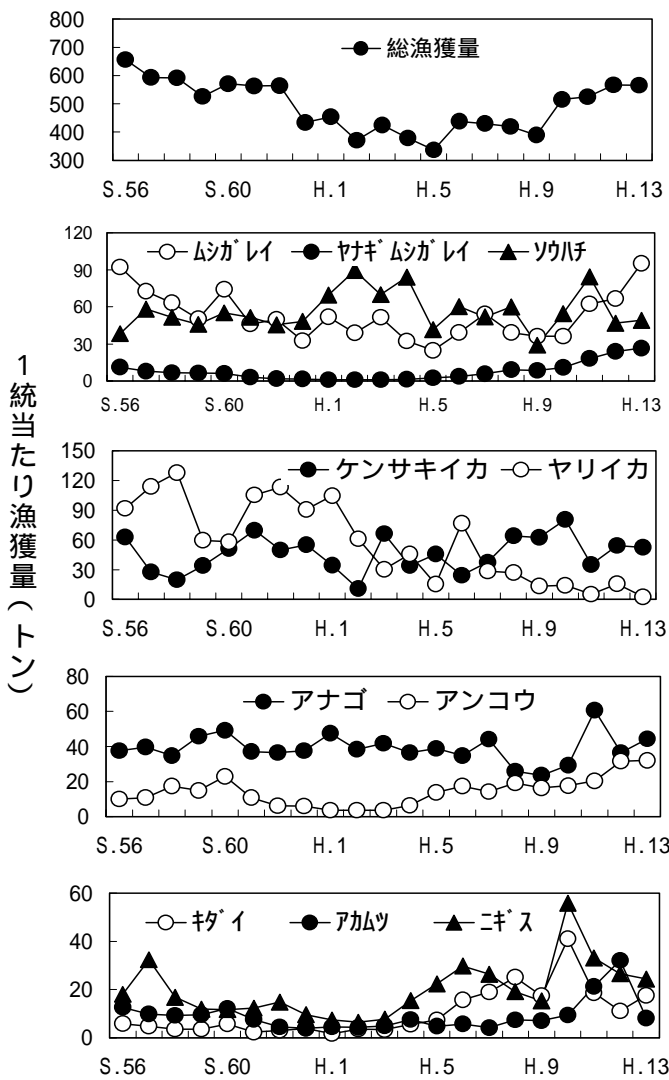


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

年の2.4倍となり、昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。

### キダイ好調

キダイの漁獲量は平成11年漁期から減少傾向にありましたが、今漁期は1統当たり18トンで前漁期の1.6倍、平年の1.7倍の水揚げでした。アカムツは前漁期が昭和56年漁期以降最高の水揚げでしたが、今漁期は8トン/統と前漁期の26%に留まり、平年を10%下回りました。また、ニギスは24トン/統と前年の92%に留まりましたが、平年を24%上回りました。

### 県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（4ヶ統）の平成13年漁期の総漁獲量は1,666トン、総水揚げ金額は9億7千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は416トンで前漁期を6%、平年を10%上回り、水揚げ金額は2億4千万円で前漁期を11%、平年を7%上回りました。

### ムシガレイ・ヤナギムシガレイ・ソウハチ・アナゴ好調、ニギス・アンコウ・キダイ・イカ類低調

ムシガレイの総漁獲量は153トンで前漁期の1.4倍、ヤナギムシガレイは249トンで前漁期の2倍、ソウハチは188トンで前漁期の1.4倍となり、3種とも昭和63年漁期以降最高の水揚げでした。また、アナゴは106トンで前漁期の1.5倍、昭和63年漁期以降2番目の水揚げでした。逆に減少した魚類（9%～40%減）はニギス19トン、アンコウ112トン、キダイ62トン、アカムツ14トンでした。イカ類はケンサキイカが32トンで前漁期の53%に留まり、ヤリイカは4トンで前漁期の33%となり、昭和63年漁期以降最低の水揚げでした。

### 県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数6ヶ統）の平成13年漁期（平成13年8月15日～平成14年5月31日）の総漁獲量は3,397トン、総水揚げ金額は15億9千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は566トンで前漁期とほぼ同じ量、平年（過去20年平均）を16%上回りました。水揚げ金額は2億6千万円で前漁期を2%下回りました。

### カレイ類好調

ムシガレイの漁獲量は平成11年漁期から増加傾向にあり、今漁期は1統当たり95トンで前漁期を43%、平年を88%上回りました。ヤナギムシガレイは26トン/統で前漁期の1.1倍、平年の4.1倍となり、昭和56年漁期以降最高の水揚げでした。また、ソウハチは49トン/統で前漁期を6%上回りました。

### イカ類低調

ケンサキイカの漁獲量は1統当たり52トンで前漁期を4%下回り、平年を14%上回りました。ヤリイカの漁獲量は平成9年漁期から10トン前後と低迷が続き、今漁期は3トン/統で前漁期の17%、平年の4%となり、昭和56年漁期以降最低の水揚げでした。

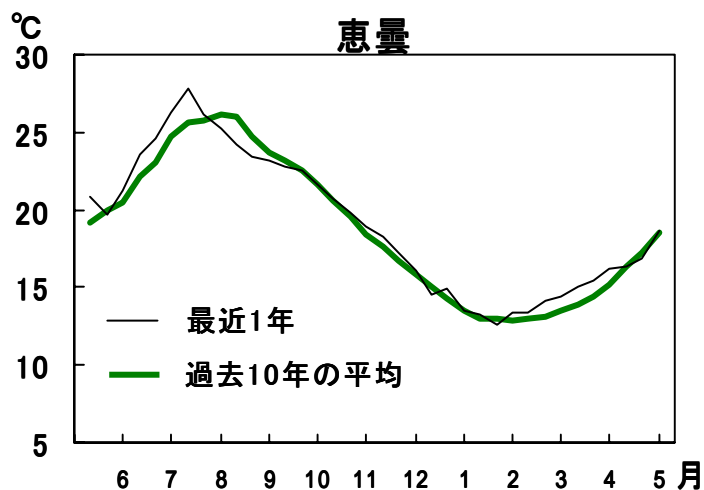
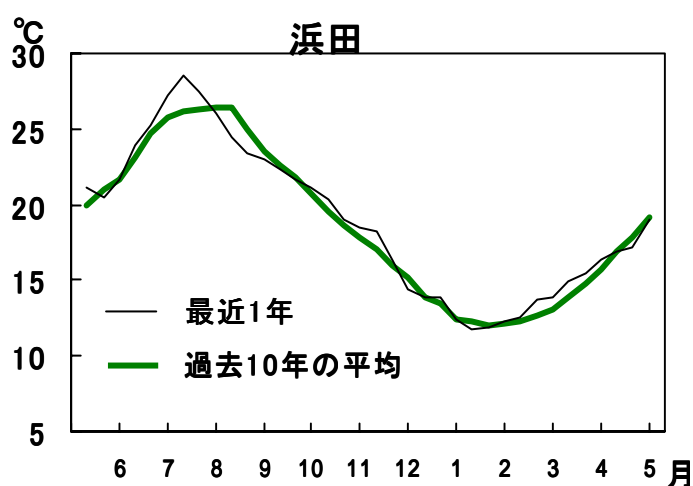
### アナゴ・アンコウ好調

アナゴの漁獲量は1統当たり44トンで前漁期を21%、平年を14%上回りました。また、アンコウは平成10年漁期から増加傾向にあり、今漁期は32トン/統で前漁期を2%上回り、平

## 《 5月の海況 》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	17.7	-0.3	平年並み
恵曇	17.3	-0.1	平年並み

5月の月平均水温は4月に比べ浜田で2.1、恵曇では1.7上昇しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過でした。



6月上旬の海洋観測結果によると表層では水温20前後の暖かい水塊が覆い、沿岸海域の水温は5月に比べ、一気に約5も上昇しました。中層及び底層の冷水域は先月も観測された隠岐諸島の西約75マイルに加え、隠岐諸島の北北西約95マイル、北170マイル、北北東45マイルに計4つ確認されました。いずれの冷水域も発達しており、隠岐諸島の西約75マイルの底層水温は4と先月を下回りました。この4つの冷水域の間には2つの暖水域が形成され、複雑な水温分布となりました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや高め～かなり高め」、中層では「かなり低め～はなはだ高め」、底層では「はなはだ低め～かなり高め」となりました。

## 《 5月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に629トン、総水揚げ金額は9,096万円でした。1統当りの漁獲量は157トンで、平年(過去4ヵ年平均)の42%でしたが、不漁だった前年を大きく上回りました。水揚げ金額は2,274万円で前年の約1.5倍、平年の89%となりました。恵曇では、1ヶ統のみの操業で、マアジ主体に総漁獲量51.7トン、総水揚げ金額は1,444万円でした。1統当りの漁獲量は前年の約2.5倍、平年の18%、水揚げ金額は前年の2.4倍、平年の106%となりました。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量247トン、総水揚げ金額は5,549万円でした。1統当りの漁獲量は82.4トンで前年の70%、平年の21%、水揚げ金額は1,850万円で前年の108%、平年の80%となりました。浜田でマアジが前年に比べ好調ですが、県全体としては低調な漁模様となっています。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に121トンで、前年の2倍程度の漁獲量となりました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に59トンで、こちらは前年の半分程度の水揚げとなりました。浜田に水揚げされたスルメイカの魚体は20～40入りが主体となっています。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は498トン、総水揚げ金額は1億8,575万円、1統当たり漁獲量は83.0トン(前年

比 143%、平年比 183%) 水揚げ金額は 3,096 万円 (前年比 104%、平年比 146%) でした。漁獲の中心はムシガレイ (前年比 136%) スルメイカ (前年比 155%) でした。

恵曇港の総漁獲量は 179 トン、総水揚げ金額は 9,530 万円、1 統当たり漁獲量は 44.7 トン (前年比 120%、平年比 135%) 水揚げ金額は 2,383 万円 (前年比 133%、平年比 134%) でした。漁獲の中心はヤナギムシガレイ (前年比 425%)、ムシガレイ (前年比 197%) でした。

#### 【小型底びき網漁業】

大田市・和江両漁協とも前年に比べ量・金額とも 20%前後上回りました。また 1 日 1 隻当りの量・金額も前年を上回っています。両漁協ともハタハタがまとまって漁獲され、特に和江漁協では前年の 4.4 倍の水揚げとなっています。またケンサキイカが前年の 3~3.6 倍の水揚げがあり、好調に推移しました。一方、近年春季にまとまった漁獲が見られたソウハチは、和江漁協では前年の 1.5 倍の水揚げがありました。大田市漁協では前年の 6 割に留まりました。

#### 【定量網漁業】

県全体では漁獲量・水揚げ金額とも平年・前年を下回りました。各地区ともマアジ、ブリが主体で、マアジ・ブリともに前年並みの漁獲量となっています。その他では、アオリイカが前年の 3.9 倍、トビウオ類が 1.6 倍、ヒラマサが 1.3 倍の漁獲量となっています。

県東部ではマアジ、ブリ、ヒラマサ、アオリイカ、県西部ではマアジ、アオリイカ、ブリ、コウイカ類、ケンサキイカ、隠岐地区ではブリ、マアジ、カワハギ類などの漁獲量が多くなっています。

#### 【釣・縄】

県全体では漁獲量・水揚げ金額とも前年並でしたが、平年を 25%前後下回りました。各地区とも漁獲量・水揚げ金額が平年値を下回り、特に県東部では平年の 50~60%の漁獲量・水揚げ金額となっています。

県東部ではスズキ、ブリ、スルメイカ、県西部ではブリ、トビウオ類、カサゴ・メバル類、隠岐はカサゴ・メバル類、スルメイカ、キダイなどの水揚げ量が多くなっています。

### 漁獲統計

平成 14 年 5 月 1 日~31 日

漁業種類	水揚げ港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	65	マアジ	9.7 トン	629 トン
	恵曇	9	マアジ	5.7 トン	51.7 トン
	浦郷	46	マアジ	5.4 トン	247 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	440	スルメイカ	274Kg	121 トン
	西郷	466	スルメイカ	127Kg	59 トン
沖合底びき網	浜田	32	ムシガレイ・スルメイカ	15.6 トン	498 トン
	恵曇	30	ヤナギムシガレイ・ムシガレイ	6.0 トン	179 トン
小型底びき網	和江	474	ソウハチ・ハタハタ	705Kg	334 トン
	大田市	330	ハタハタ・ソウハチ	580Kg	192 トン
定量網	浜田	102	マアジ・アオリイカ・コウイカ類	529kg	53.9 トン
	美保関	165	ブリ・マアジ・カタクチイワシ	458kg	75.6 トン
	浦郷	57	ブリ・カワハギ類・メダイ	758kg	43.2 トン
釣・縄	浜田	1359	トビウオ類・ブリ・ヒラマサ	19.6kg	26.6 トン
	五十猛	506	カサゴ・メバル類・ブリ・メダイ	20.9kg	10.6 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。